

2020年度

2月1日 午前
2科・4科 入試

国 語
(50分)

注 意

- 1 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は□一から□三まで、17ページにわたって印刷してあります。
- 3 解答の下書きが必要なときは、この問題用紙の余白を利用しなさい。
- 4 解答用紙には、受験番号と氏名を書きなさい。
- 5 解答はすべて解答用紙に書き、解答用紙を提出しなさい。
- 6 句読点、記号は字数に数えなさい。
- 7 本文中には、問題作成のために省略や表現を変えたところがあります。

かえつ有明中学校

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

まず始めに、僕が2008年に描いた『100かいだてのいえ』という絵本をご紹介したいと思います。

絵本の主人公は、トチくんという星を見るのが大好きな男の子です。ある日トチくんは、「ぼくは100かいだてのいえのてっぺんにすんでいます。あそびにきてください」と書かれた不思議な手紙を受け取りました。トチくんが地図をたよりに森の中を歩いていくと、目の前に突然ものすごく高い建物が現れます。トチくんは、おそろおそろその家の中に入り、100階めざして登っていく、というストーリーです。

この『100かいだてのいえ』には、他の絵本と違った大きな特徴があります。それは「縦に開く」ことです。（中略）A4サイズの絵本を縦に開くと、長さが60センチほどの縦長の画面が現れます。この見開きに描かれた部屋を、下から順番にひとつひとつ楽しみながら、ページをめくって上へ上へと登っていく仕掛けになっています。この絵本は評判を呼び、うれしいことに今では子どもたちに大人気の絵本になりました。

ところで、絵本というみなさんは普通どんな形を思い浮かべますか？ 例えば有名な『ぐりとぐら』、『はらぺこあおむし』などは、横長の絵本を横方向に開きます。『からすのパンやさん』、『てぶくろ』などは縦長ですが、やはり普通に開きます。一般的に、縦に開く絵本は非常に少なく、さらに、僕の『100かいだてのいえ』のように下から上へ読ませる絵本はとても珍しいといえます。

実はこの『100かいだてのいえ』は、僕にとって初めての本格的な描き下ろし絵本でした。僕が書いた子育てエッセイを読んだ児童書の老舗出版社・偕成社の編集者の方から「絵本を描いてみませんか？」とお誘いがあり、昔から絵本に興味があった僕は、喜んで引き受けました。娘が生まれ、子育てにも熱心に取り組み始めていたので、子どものために何かしたいという気持ちもありました。

ただ、実のところその時点では、最終的に物語性があり、手描きで細かい絵を描くような絵本になるとはまったく予想し

ていませんでした。ストーリーにも絵にも自信がなかったので、ある種、アイデアで乗り切ろうかな、と気軽に考えていたのです。

書店の絵本売り場をのぞいてみると、Aの絵本が売られています。大きい絵本、小さい絵本、穴のあいた絵本、飛び出す絵本。ふわふわ・ざらざらした素材を貼り付けて感触を楽しむ絵本もあります。また最近ではリアルな音が出たり、光ったりするハイテクな絵本もたくさん並んでいます。それらを見ていたので、絵本はアイデア次第、いろいろなつくり方をしてほしいんだ、と想像していました。

(B)、編集者の方にそのことを言うと、穴をあけるくらいならまだしも、特殊な絵本はうちではやっていない、とのこと。また、特別な紙を使うのもコスト的に難しく、できれば普段使っている用紙を使ってほしい、ページ数も8の倍数にきっちり収めてください、と言われました。絵本ならCに考えられる、と勝手に思い込んでいた僕にはショックでした。

(D) 特殊な仕掛けがなくても物語や絵で見せる素晴らしい絵本はたくさんあります。それに、普通につくって価格が抑えられれば、それに越したことはありません。ただし僕には、絵やストーリーだけで魅力ある絵本をつくる自信はありませんでした。どうしたら自分らしい絵本がつかれるだろうか 僕は悩み始めました。そんな頃、僕の長女が算数で困っていることを知ったのです。

僕の長女口力ちゃんは、当時小学1年生。習い始めた算数でつまずいていました。1、2、3と数えていって11、12、13くらいまでは一気に言えるのですが、その先がうまく数えられないのです。聞いていると、19から20へ、29から30へと、数が繰り上がる仕組みがわかっていないようでした。それを知り、(これで絵本ができるかも！)と、ひらめきました。

本は、開くと必ず左右対称の形をしています。ページを何度めくっても形は一緒です。この繰り返し、数字の構造にうまく当てはまるのではないか、と思いました。左右のページにそれぞれ5個の何かを描いて1見開きで10をあらわし、それが10回繰り返されると100になるような絵本をつくったら、数の繰り上がりの構造が感覚的に飲み込めるのではないで

しょうか。ページ数も、絵本にぴったり合いそうです。

それでは、いったい何を描いたらいいでしょう？ リンゴやミカンなどを描いてもありきたりです。それに、ページをめくるうちに、だんだんと大きな数になることを実感させたい、とも思いました。

数とともに大きくなるものは……考えるうちに思いついたのが「建物」でした。部屋が積み重なって高くなっていくのは面白そうです。

その時、(そつだ！ 絵本を縦開きに見たら?)とひらめきました。高さを表現するのに、横開きでは迫力が出ません。縦にするだけならコストもかかりません。僕自身、縦に開く絵本を見た記憶がなかったので、これは新しい絵本が出来るかも、と直感しました。

そこからは、イメージがどんどん膨らんでいきました。高い建物といっても、無機質な高層ビルにはしたくない。それなら「家」にしたらどうだろうか。見聞きごとの変化をつけるために、10階ごとにいろいろな動物が住んでいて、それぞれの家の形も変えよう……などなど。

この時点では、文章のない絵だけの絵本でいいと思っていました。ところが、編集者の方に相談すると「物語をつけたほうがずっとよくなる」とアドバイスされて、ストーリーづくりの経験のない僕は困ってしまいました。

それでも、苦労してなんとかストーリーをひねりだし、100階分の部屋をひとつひとつ細かく考えていきました。こうした絵本づくりは初めてだったことに加えて、細かな絵に時間がかかり、結局描き上げるまで一年半もかかってしまいました。

そしてようやく刊行にこぎつけたのですが、実際のところ、縦に開くアイデアを含め、この絵本が子どもたちにどう読まれるのか、僕にはまったく自信はありませんでした。ところが、発売されて1週間経つか経たないかの頃、「増刷が決まりました！」と編集者の方が興奮して連絡を入れてくれ、僕は小躍りして喜びました。

(中略)

絵本に限らず、映画やテレビなど、世の中には横長の画面のものがたくさんあります。最近のテレビは、以前よりも

ます横に長くなりました。ハイビジョンテレビの16対9という画面の比率は、人間にとって最も自然な視野角を考えて生み出されたそうです。映画やテレビの画面が横に長いのは、人間の目が左右に並んでいるのに合わせているからなのです。

でも、だからこそ縦長の画面は新鮮しんせんに映ったでしょう。映画やテレビでは機械の都合上、縦長画面にするのは無理があります。絵本なら簡単にできます。『100かいたてのいえ』は、本というメディアの特性を活かしたともいえます。

ただし、絵本を縦にするアイデアには多少冒険ぼうけんもありました。大多数の本が横開きなのは、ちゃんと理由があります。目と同じように、我々の「手」も左右についているため、本は左右に開いたほうが安定して持てるし、ページもめくりやすいのです。

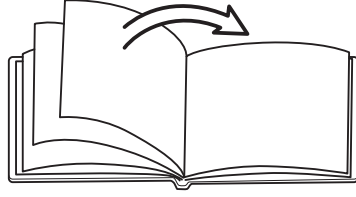
逆に、離はなれたところから眺ながめる絵画やポスター、掛かけ軸じくなどは、縦でも横でも構いません。また、チラシ、書類など一枚がバラバラなものも気になりません。ちなみに携けいたい帯電話の画面は縦ですが、片手で持つのが前提だから。それぞれにちゃんと理由があるわけです。本が横開きなのは、人の身体に合わせているからなんですな。

そういう意味では、僕の『100かいたてのいえ』も、受け入れられない心配がありました。発売後、寝床ねどこで読み聞かせしにくい、というお母さん方の意見も確かに聞こえてきました。でも、ホツとしたことに子どもたちはまったく気にしていません。縦に開くことの新鮮さと、建物を登っていくダイナミックな面白さが、読みにくさをカバーしているからではないでしょうか。

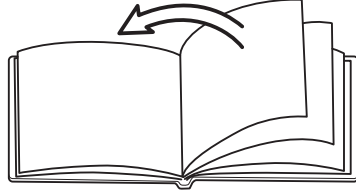
(岩井俊雄 『アイデアはどこからやってくる?』 『より』)

問一 『100かいたてのいえ』は、どのような開き方ですか。もっともふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

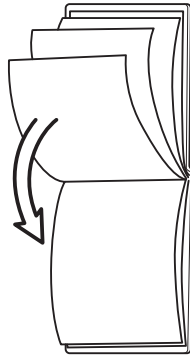
ア



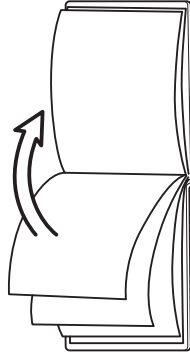
イ



ウ



エ



問二 ところで、絵本というみなさんは普通どんな形を思い浮かべますか？とありますが、筆者がこの問いかけをし

ている意図はどのようなことですか。もっともふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 読者に一般的な絵本をイメージさせ、多くの読者は本についての考え方が浅いと暗に批判している。

イ 一般的な絵本の開き方をイメージさせることで、縦に開く絵本がめずらしいものだとということを強調している。

ウ それまでは筆者の書いた絵本についての話だったが、そこから一般的な絵本の話へと話題を大きく変えている。

エ 読者に問いかけ考えさせることで、筆者の一方的な説明ばかりで読者があきてしまわないように構成を工夫している。

問三 A C にあてはまることばをそれぞれあとから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大同小異 イ 三々五々 ウ 前代未聞 エ 多種多様

C

ア 一意専心 イ 臨機応変 ウ 自由自在 エ 一朝一夕

問四 (B) (D) にあてはまることばをそれぞれ次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ 確かに ウ ところが エ つまり オ かえって

問五 (これで絵本ができるかも!)と、ひらめきました について、次の各問いに答えなさい。

具体的にどのようなことですか。もつともふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 数字の繰り上がりの仕組みを視覚的に理解するために、横開きではなくて縦開きの絵本が作れそうだ、ということ。
- イ 数字の繰り上がりの仕組みを、ページをめくることが感覚的に理解できる絵本が作れそうだ、ということ。
- ウ 数字の繰り上がりの仕組みについて、子どもにいていねいに説明してあげる絵本が作れそうだ、ということ。
- エ 長女が算数で困っていることを知って、子どもが算数を楽しく学べる絵本が作ってみよう、ということ。
- オ 長女が算数で困っていることを知って、数学が苦手な子どもを主人公とした絵本を作ってみよう、ということ。

この絵本に描くのは「建物」がふさわしい、と筆者が思いついたのはなぜですか。三十字以内で答えなさい。

問六 無機質な とありますが、ここではどのような意味ですか。もっともふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 命のぬくもりを感じさせない
- イ これといった特徴がない
- ウ 明るい色合いではない
- エ 形が変えられない

問七 本が横開きなのは、人の身体に合わせているから とは、具体的にどのようなことですか。五十字以内で答えなさい。

問八 本文の内容にあてはまるものを次から二つを選び、記号で答えなさい。

- ア 筆者は、絵やストーリー作りに自信がなかったため、初めは絵本を作ることになり気ではなかった。
- イ 筆者が関わった編集者は、絵本に特殊なアイデアを取り入れることを最初は良く思わなかった。
- ウ 絵本の中で建物を描いたのは、筆者の娘が高い建物に興味があったからである。
- エ 映画やテレビの画面が横長なのは、人間の目の構造に深く関係している。
- オ 発売した『100かいだてのいえ』に対する不満は、筆者の耳には全く聞こえてこなかった。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

時計を見るともう二時だ。公園の門の前に座り込み、おにぎりを食べお茶を飲む。 ^a 庄司は白マスクをとって食べていたが、顔を見られたくないのだろう、帽子を目深にかぶり、後ろを向いて食べている。

「これからどうする。どこで野宿するか」

と、 ^b 大和田が訊いた。

「川にしようよ」

と、 ^c おれは提案した。さつきバスから見えた輝く川を近くで見たい。

「川か。いいな」すぐに大和田が賛成する。「BBはどうだ」

「食べ終わって素早くマスクを装着した庄司が頷く。

「いいですね」

停留所にもどり、バス道路を歩き、河原に下りられるところを探した。かなり歩いて階段を見つける。河原に下りるとうまい具合に草の生えたこんもりと盛り上がった地面があった。

庄司は早速、背中のリュックをおろしてテントを取り出した。手慣れた様子でグラウンドシートを広げる。おれと大和田は、庄司を手伝ってポールを支えてペグを打ち込んだ。

「あとは一人で大丈夫です」

そういつてくれた庄司に任せて、川に近づいた。さざなみが、砂地にひたひたと寄せている。靴を脱ぎ、くるぶしまで水に浸かった。驚くほど冷たい。べたべたしていた顔と腕や足に水をかけると、めっちゃくちや気持ちよかった。

川の向こう岸に広がる山をながめた。

重なる木々はこんもりとして、ぱっと見ると、ブロッコリーみたいだ。でも目をこらすといろいろな木が重なっている。

緑は枝先になるほど明るく、重なっている奥は暗い。しかもどの緑も同じ色じゃない。数え切れないほどの緑がここにある

のだ。そう思うと頭がくらくらしてきた。

「達也、下もすごいぞ」

大和田の声に、下を見ると、小さな魚がたくさん泳いでいる。ものすごい群れだ。大和田は魚を素手で囲って獲ろうとしていた。おれも真似たが、獲ったつもりで水の中から手を引き上げるとなにもない。何十回、繰り返しても、二人とも一匹も獲れなかった。

そのうち、大和田と水の掛け合いになった。こんなに大騒ぎしたのは、久しぶりだ。びしょ濡れになってテントにもどると、庄司が銀行強盗からいつもの箱姿になっていた。

「箱を持ってきてたの」

驚いて訊くと、庄司は頷く。

「つぶしてリュックに入れてきたんです」

「やれやれ、そんなに箱が好きか」

大和田がいうと、庄司がうつむいた。

「やっぱり、こっちのほう慣れてるんです。マスクとサングラスだと顔に密着してしまうんです。箱は顔のまわりに空間がありますので……」

大和田は庄司の肩を軽くたたいた。

「いいいいいよ。BBの好きなようにするのが一番だ」

日が傾き、空がオレンジ色に染まりはじめた。明るいうちに食べようということになり、おにぎりやパンの残りを広げる。三人並んで、河原の石に座って食べた。

「しかし、まさか夏休みにこういうところで、めしを食うとは思わなかったな」

「つきあわせてしまって、本当にすみません」

庄司が四角いロボットの口に器用に食べ物運び込みながら、また頭を下げる。

「ちがう。気持ちいいってことだ」

「うん、気持ちいいよ」

おれも同意する。

川面かわもが光っている。すぐ向こうには山の稜線りょうせんが見える。頬ほおに当たる風は涼しくなり、のんびりとした気分だ。

影かげは三つ。一人は頭が四角い。

日が沈しずむと、庄司が持ってきた懐中電灯かいちゅうを囲んで座った。あたりは静かで、虫の声とたまに川の向こうの道路を通る車の音が聞こえるだけだ。

少しは園芸部らしいことをしようということになり、知っている植物の名前をそれぞれいつてみる。おれは二十一、大和田は十七、庄司は三十八だった。

「今、何時？」

大和田が訊いた。おれは腕時計うでを見る。

「七時半」

「まだそんな時間か」

大和田が退屈たいくつそうにいった。

「そうだ、キャンプファイヤーやろうぜ」

「燃やすものがないよ」

「おれ、雑誌がある」

自分のリュックから、バスで読んでいた雑誌を大和田が取り出す。一枚ずつちぎってまるめる。それと、さつき食べるのに使った箸はしや菓子箱かしば、他にも燃やす紙の部分もまぜた。懐中電灯で照らし、テントのそばにある枯れ草かや枝も集めた。それでもたいした量にはならないが、小さな山にして庄司のライターで火をつける。

明るくなると、ほっとした。足元にころがっている小石の形までよく見える。三人で黙た黙まって火を見ていたが、すぐに炎ほのおは

小さくなる。雑誌を一枚ずつちぎって火に入れていったが、すぐになくなった。

「今度はばくが探してきます」

庄司が立ち上がり、懐中電灯を持って探しにいった。しばらくして枝やら草をひとかかえ持ち、もどってきた。小さくなった炎に顔を近づける。乾いた草を入れると、ぱちぱちと音がした。

突然、その場で庄司が踊りだした。いや、飛び跳ねている。見ると箱に火がついている。あごの近く。みるみる、炎が箱を伝って上に広がっていく。

「庄司、火だ！」

「B B、早く箱を脱げ！」

おれたちは立ち上がった。庄司は川のほうへ走りながら箱を脱ぐ。箱が地面にころがる。おれと大和田も追いかけた。庄司は靴のまま川に入ると、手ですくった水を何度も顔にかけた。

「大丈夫か。やけどしてないか」

暗くてはつきりと見えないが、箱をかぶっていない庄司が、うつむいて立っている。

「大丈夫。やけどはしなかったです」

小声で答えた。大和田が自分の頭のタオルをとり、さしだす。

「これで拭け。臭いけど。顔も隠していいぞ」

「いや、いいです。ちょうどいいんです」

庄司は顔を手のひらでぬぐうと、おれたちの前を通り、残り火の燃えているキャンプファイヤーの前にもどっていった。おれと大和田も緊張してもどった。

オレンジ色の炎が、庄司の顔を照らしている。眉が太く、目が二重ですごく大きい。鼻も高く、くつきりとした顔だ。全然コンプレックスを持つような顔じゃない。好みは分かれるにしても、かっこいいといわれる顔だ。

「なんだよ。おまえ、いい顔してるじゃん」

大和田も 拍子抜けひょうしめしたらしい。でも庄司は深刻そうな顔だ。

「以前、篠崎くんには話をしましたが、この顔のことで中学のとき、いろいろやられたんです。そのときの一番嫌いやだったのが、出木杉だということなんです」

「できすぎって、それ自慢じまんか」

「ちがいます！」

庄司が怒鳴どなった。

「出木杉くんって、ドラえもんに出てくる顔が濃こいやつがいますか。あれです、あれに似てるって、ずっとからかわれていたんです」

「本当だ。そういわれたらそっくりだ。眉毛まゆげが濃く、絵に描かいたような二重でぱっちりとした目、筋の通った鼻。うまいネーミングに思わず唖ありそうになる。」

「これも篠崎くんには前にいいましたけど、大和田くんに似たクラスメイトが何人かいたんです。いわゆる不良です。いえ、今はもちろん大和田くんとはちがうことは知っていますが。そいつらがぼくの顔のことをいろいろいったんです。殴なぐられたこともありました。それでぼくは学校にいけなくなっただけです。それから外に出るときは箱をかぶるようになったんです。それに、ぼくの下の名前、知ってますよね。二人がどう思っているか、わかりませんが、いまだき善男よしおっていうんです」

庄司はさらに深刻そうな顔になる。

「庄司善男……。これは親を恨うらみます。そのうえこの漫画まんがみたいな顔、自分でも嫌になります。ドラえもんの出木杉くんは勉強もスポーツもできて性格も明るくていいやつだけど、ぼくはちがいます。似ているのは、顔のつくりと勉強が得意なことだけです。スポーツは得意じゃないし、性格も暗い」

「A も B もたいしたことじゃねえじゃん、おれにはB Bの悩みなやみがさっぱりわからんな。なにが問題なんだ。なんで箱かぶんなきゃいけないんだよ」

大和田が呆あきれたようにいうと、庄司が頭を強く振ふった。

「顔と名前をからかわれるんですよ！ この気持ち、大和田くんにはわからないんです！」

「でも今、おまえのことをからかうやつはいないだろ！」

大和田も怒鳴り返した。

「いいか、よく聞け。おまえは変人だ。おまえは頭がいい。おまえは意外に行動力がある。そしてちょっと暗い。でも、おれはおまえのことが嫌いじゃない。顔も名前も関係ねえよ」

庄司は黙った。炎が小さくなり、あつというまに灰の上でわずかに燃えているだけになる。おれは庄司の箱を見た。箱は地面に叩きつけられた衝撃のせいか、火が途中で消えている。立ち上がり、箱を拾い上げた。キャンプファイヤーの火の中に放り入れる。箱に火が燃えうつり、また明るい炎がたちはじめた。

「もう箱はいらないよね。大和田がいったように今、庄司をからかうやつはいないんだから」

庄司が小さく頷いた。

「……植物を大きな鉢に植え替えると、急に大きくなりますよね。あれを見ていつも思っていたんです。それまでは鉢に合わせて小さく生きていたんだなって」

「箱、脱げてよかったじゃん」

大和田が明るい声でいった。

(魚住直子『園芸少年』より)

*コンプレックス…劣等感。

問一 a 庄司、 b 大和田、 c おれ の三人の関係をのべた次の文の中から正しいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 三人は、中学生のころから同じ高校に進学しようとして決めていた親友である。

イ 三人は、高校入学後、同じクラブに所属している仲間である。

ウ 三人は、同じ地域に生まれ育ち、同じ夢を抱いて励ましあう仲間である。

エ 三人は、趣味が同じで、休日になるといつも野外キャンプにでかける友達である。

問二 本文の場面を前半と後半に分けるとすると、後半はどこから始まりますか。後半の最初の五字をぬき出しなさい。

問三 銀行強盗からいつもの箱姿になっていた について、次の各問いに答えなさい。

「銀行強盗」とはどういう姿ですか。具体的に二十字以内で書きなさい。

「いつもの箱姿」とありますが、「庄司」がこのように素顔を見せられなくなったのは、いつごろ、どのような出来事があったからですか。四十字以内で説明しなさい。

問四 緊張してもどつた 理由として考えられるものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 大事な箱が燃えつき、支えをうしなつた「庄司」が今後どう動くか心配になつたから。

イ いつもは隠している、「庄司」の顔をちゃんと見るのははじめてだつたから。

ウ 「庄司」のきげんが悪そうに見えて、これから起こる展開がこわくなつたから。

エ 「庄司」のやけどが心配で、キャンプを中止にすべきであると決心したから。

オ 「庄司」の「ちようどいいんです」という言葉の意味を理解できなかったから。

問五 拍手|抜け| のここでの言葉の意味として正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア あまりに意外な展開に興奮すること
- イ 緊張がゆるみ、がっかりすること
- ウ 力が抜け、やる気がなくなること
- エ いままでの思いこみがくずれること

問六

A
と
B

 にあてはまる言葉を本文中からぬき出しなさい。

問七 キャンプ|ファイヤー|の火の中に放り入れる| について、次の各問いに答えなさい。

- これはだれの動作ですか。次から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 達也
 - イ 大和田
 - ウ 庄司
 - エ B B

の人物がこの動作にこめた「思い」とはどういうものですか。「箱」という言葉をかならず使って解答さんの文末「〜てほしい気持ち」につながるように書きなさい。

問八 ……植物を大きな〜いたんだなって とありますが、この発言の意味として正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大きな鉢に植えかえられると大きく育つ植物のように、自分をいじめた不良たちにも変化が起きているということ。
- イ 偶然に起きたできごとが、今後の人生を長い間ささえるような大きな原因となることがあるということ。
- ウ 現在の自分に対するイメージや考え方を变えることによって、未来の自分を大きく変えることができるということ。
- エ 友人をふやしたり環境を大きく変えたりすることで、それまでの自分のからを破ることができるということ。

三 次の各問いに答えなさい。

問一 次の——部の漢字をひらがなに直しなさい。

賃貸のマンションに住んでいる。

なにもにも代えられない尊い命。

キャッシュレス決済が普及する。

子供のころからの夢が成就する。

問二 次の——部のカタカナを漢字に直しなさい。

テストで素晴らしいセイセキを残す。

ラグビー日本代表の試合をカンセンした。

彼は、いつもイサギヨい態度をとる。

日本は、外国に自動車を多くユシュツしている。

問三 次の、の——部と同じ種類の言葉をそれぞれあとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

僕が見る限り、彼女には欠点がない。

ア 目が悪くて遠くの文字が見えない。

イ 冬休みの宿題を、何もやっていない。

ウ どんな教科でも無駄なものはない。

エ この強い意志は決してゆるがない。

天気予報によると、明日は雨が降るらしい。

ア 飼い猫の姿が、何とも愛らしい。

イ あの人の父は、どうやら有名な画家らしい。

ウ 自分のこれまでの人生は、とても誇らしい。

エ 彼のふるまいは、本当に男らしい。

